

# KIZUNA レポート

第88期 中間期

2017年4月1日～9月30日

つなぐを  
化学する



荒川化学工業株式会社



## 株主の皆様へ

代表取締役社長  
谷奥勝三

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第88期中間期の業績をご報告するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の世界経済は、米国を中心に緩やかに回復しました。しかしながら、米国の政策や中国を始めとするアジア新興国等の経済の先行きは、依然不透明な状況にあります。一方、国内経済は、堅調な雇用情勢を受けた個人消費の回復や輸出の持ち直しなどによる企業収益の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2016年度よりスタートしました第4次中期5カ年経営計画の方針（「事業の新陳代謝」や「真のグローバル化」など）に沿った重点施策を進め、事業拡大や事業開発の促進に注力してまいりました。

その結果、当中間期の売上高は398億90百万円（前年同期比5.1%増）、営業利益は26億62百万円（同4.3%増）、経常利益は28億43百万円（同14.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は20億63百万円（同20.8%増）となりました。

なお、当中間期の配当金につきましては、1株につき19円とさせていただきます。

先行きの世界経済は、米国の回復や資源国の持ち直しから拡大基調に向かうと見られるものの、地政学的リスクの高まりに伴う世界の政治・経済情勢の不透明感が続くと思われまます。一方、国内経済は、徐々に回復軌道に戻るものの、海外経済の不確実性などから景気を下押しするリスクに注意が必要な状況が続くと見られます。

当社グループにおきましては、為替変動や原材料価格の上昇があるものの、採算性の改善およびグローバル展開を加速してまいります。

2020年度に向けて、中長期の成長の源泉となる新規開発投資が負担できる構造へと変革し、全事業の収益力を向上させ、第4次中期5カ年経営計画の達成を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 第4次中期5カ年経営計画 (2016~2020年度)

## Dramatic SHIFT 1

持続的な成長のため、劇的な経営資源の再配置や最適化により、事業の変革を実現し、全社“1”丸となって真のグローバル化を目指す。

#### 基本方針と3つの重点項目

### SHIFT 実現体制の構築と事業の新陳代謝の実践

1

SHIFT 実現体制の構築

2

事業の新陳代謝の実践

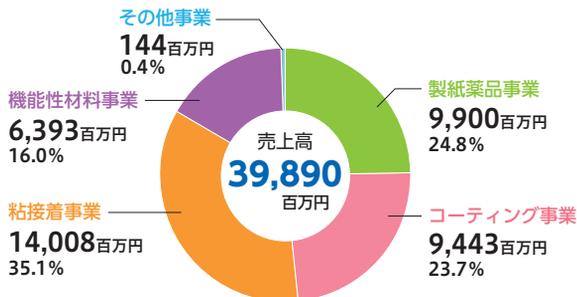
3

真のグローバル化とガバナンス体制強化

#### 経営目標(連結)

	2016年度 (前期)	2017年度 (予想)	2020年度 (目標)
売上高	773 億円	780 億円	1,000 億円
営業利益	50 億円	47 億円	58 億円
経常利益	53 億円	49 億円	60 億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	34 億円	32 億円	37 億円

## 事業の概況



### 製紙薬品事業

国内製紙業界は、印刷・情報用紙の需要が低迷する中、段ボール原紙など板紙の生産が堅調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、板紙向け紙力増強剤の需要が増加しましたが、原材料価格の上昇による収益性の悪化もあり、売上高は99億円(前年同期比12.2%増)、セグメント利益は5億90百万円(同11.7%減)となりました。

### コーティング事業

印刷インキ業界は、出版・広告分野では市場の縮小が続いております。このような環境のもと、当事業におきましては、印刷インキ用樹脂は、出版用などが大幅に減少しました。一方、機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂は高付加価値製品の寄与もあり、堅調に推移しました。

その結果、売上高は94億43百万円(前年同期比1.0%増)、セグメント利益は5億25百万円(同1.0%増)となりました。

### 粘接着事業

粘着・接着剤業界は、世界的に紙おむつ向け接着剤の需要が増加しております。このような環境のもと、当事業におきましては、水素化石油樹脂の販売が好調に推移するとともに、アジア地域を中心にロジン系の粘着・接着剤用樹脂の販売が堅調に推移しました。しかしながら、原材料価格上昇などの影響を受け、利益面は横ばいにとどまりました。

その結果、売上高は140億8百万円(前年同期比4.2%増)、セグメント利益は14億21百万円(同0.1%減)となりました。

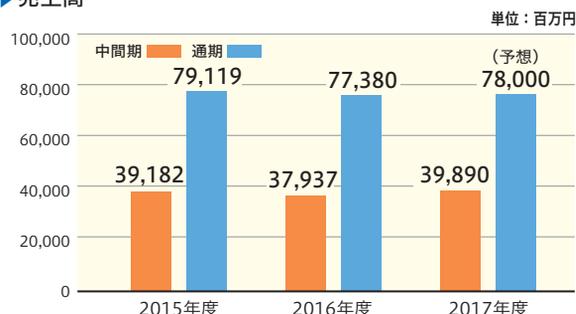
### 機能性材料事業

電子工業業界は、スマートフォンや自動車分野などでの半導体や高機能デバイスの需要が好調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、電子材料用配合製品、精密部品洗浄剤および精密研磨剤の好調により、売上高は63億93百万円(前年同期比3.7%増)、セグメント利益は3億4百万円(同87.0%増)となりました。

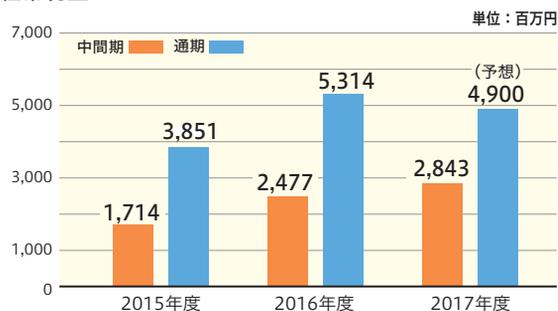
## 決算ハイライト(連結)

	前中間期	当中間期
売上高	37,937 百万円	39,890 百万円
営業利益	2,553 百万円	2,662 百万円
経常利益	2,477 百万円	2,843 百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,707 百万円	2,063 百万円

### ▶売上高



### ▶経常利益



### ▶親会社株主に帰属する当期純利益



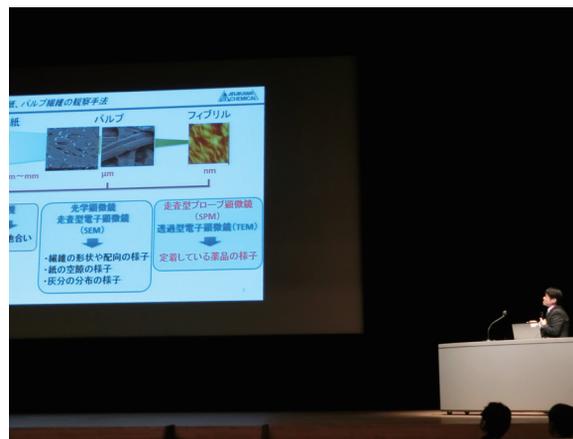
# “TOPICS”



## 紙パルプ技術協会 「第45回 佐々木賞」を受賞 しました

紙パルプ技術協会主催「第60回 紙パルプ技術協会 年次大会」において、当社の分析による両性紙力剤のパルプ繊維への定着状態の可視化が評価され、「第45回 佐々木賞」を受賞しました。また、「紙中薬品の分布状態の分析」(研究開発本部 開発推進部 分析グループ 主査 東谷仁史)と題して受賞講演を行いました。

なお、佐々木賞は、昭和47年度(第1回)より、技術開発・研究開発により顕著な成果を収め、紙パルプ業界に貢献した個人または企業を表彰するものです。



佐々木賞受賞講演

## アカマツの森の再生を目指す、 「マツタロウの森」プロジェクト



2017年8月24日、岡山県から  
二酸化炭素森林吸収評価認証書を  
交付されました



「おかやま森の大使」より認証書を受け取る水島工場長

「マツタロウの森」が、岡山県より平成29年度二酸化炭素森林吸収評価認証を受け、8月24日に岡山県庁で認証書交付式が行われました。これは、岡山県内で企業や団体が整備した森林により吸収された二酸化炭素量を規定に基づき審査し認証する制度です。初年度に整備した森林面積は0.3ヘクタールで、1.18t-CO<sub>2</sub>/年の二酸化炭素吸収量が認証されました。今後約10年をかけて3.3ヘクタールの立派な森に育てていく計画です。



7月8日 下草刈りの様子

## 会社概要 (2017年9月末時点)

商号	荒川化学工業株式会社
所在地	大阪府中央区平野町1丁目3番7号
代表者	取締役社長 谷奥 勝三
創業	明治9年(1876年)
会社設立	昭和6年1月(1931年)
資本金	33億43百万円
従業員数	1,474名(連結)

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	日本経済新聞
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 (お問い合わせ先)	大阪府中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)

### (ご注意)

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。